

I. 聖なる塗り油は、神から私たちにやって来るすべてを含む霊としてのキリストを表徴していますが、香は、私たちから神へと行くキリストを表徴しています。これは、双方向の神聖な往来です：

出30:34 また、エホバはモーセに言われた、「かおり高い香料、すなわち、ナタフ香とシケレテ香とヘルベナ香、これらのかおり高い香料と純粋な乳香を取りなさい。これはそれぞれ同じ量でなければならない。35 あなたはそれをもって香を、すなわち香料を調合する者のわざにしたがってかおり高い複合物を作り、塩を添え、純粋で聖なるものとしなければならない。

25 あなたはそれを聖なる塗り油に、すなわち香油を調合する者のわざにしたがって複合して、かおり高い膏油に作らなければならない。それは聖なる塗り油である。

A. 油塗りは、キリストの中で、またキリストを通して神を私たちにもたらし、私たちを神聖な要素にあずからせます。

B. 香は、私たちが祈りの中で、キリストと共に、またキリストとして神へと行って、神に享受を得させます。

膏油は私たちにやって来ることであり、香は神へと行くことです。その霊として私たちにやって来るキリストは膏油であり、私たちから神に立ち昇るキリストは香です。膏油は私たちに向かってであり、香は神に向かってです。膏油は私たちが享受するためであり、香は神の享受のためです。私たちは、香は私たちの享受のためであると思うべきではありません。もしそれを自分自身で享受しようとするなら、私たちは断たれるでしょう。出エジプト記第30章38節はこれについてははっきり語っています、「それと似たものを作って、それをかく者はだれでも、民から断たれる」。香は絶対に完全に神のためです。しかしながら、私たちのための享受があり、この享受は膏油、複合の霊です。膏油をもって祭司と幕屋のすべての部分が油塗られたという事実を、私たちはすでに強調しました。これは私たちの分け前です。香は神の分け前です。膏油は私たちのためのキリストであり、香は神のためのキリストです。

ヨハネ14:13 あなたがたが私の名の中で求めるものは何でも、私はそれを行なう。子の中で、父の栄光が現されるためである。14 あなたがたが私の名の中で私に何を求めても、私はそれを行なう。

15:16 あなたがたが私を選んだのではない。むしろ、私があなたがたを選んだのである。そしてあなたがたを立てた。それは、あなたがたが出て行って実を結び、あなたがたの実が残るためであり、あなたがたが私の名の中で父に求めるものは何でも、彼があなたがたに与えてくださるためである。

C. この往来は、私たちのクリスチャンの経験と非常に関係があります。それは、神がキリストの中で私たちにやって来ることと、私たちがキリストの中で、またキリストと共に神へと行くという事柄です。

私たちは経験においてただ一方的な通行を持つべきではありません。これが意味するのは、私たちは私たちに来るキリストを持つだけでなく、神に戻って行くキリストをも持つべきであるということです。私たちは双方向の往来を持つこと、神がキリストを通して私たちにやって来ることと、私たちがキリストを通して神へと行くことを必要とします。私たちは香をたくことによって回路を完成すべきです。

II. 香は五つの成分から成っていました:

A. 三つの香料は、復活における三一の神を表徴します。それに純粋な乳香を加えて、成分の数を四つにすることは、キリストの人性を表徴しています。

B. 三つの香料はそれぞれ、キリストの死を表徴しています:

1. ナタフ香は、一種の没薬、木によって生み出される樹脂状のゴムであり、キリストの生み出す命(植物の命によって表徴される—ヨハネ12:24)の甘い死を表徴します。

ヨハネ12:24 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ。

2. シケレテ香は、紅海の沼地で生長する小動物の殻であり、キリストの死と彼の贖いの命(動物の命によって表徴される—1:29)を表徴します。

ヨハネ1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の所に来られるのを見て言った、「見よ、世の人の罪を取り除く神の小羊！」

3. ヘルベナ香も、木からの樹脂状のゴムであり、キリストの生み出す命の力強い死を表徴します。

4. 第二の香料は、動物の命のものであり、神格の第二がほふられて、贖いを完成したことを表徴します。

5. 三つの香料は、生み出す命と贖う命におけるキリストの死に、三つの機能があることを示します。それは、私たちが神の子たちとして生み出すこと、私たちが墮落から贖うこと、蛇、悪魔を駆逐することです。

三つの香料は、生み出す命と贖う命におけるキリストの死に、三つの機能があることを示します。それは、私たちが神の子たちとして生み出すこと、私たちが墮落から贖うこと、蛇、悪魔を駆逐することです。第四の成分である乳香は、白い樹脂状のゴムであり、キリストの甘い復活を表徴します。三つの香料と乳香には、塩が添えられ、全部で五つの成分があり、この五の数は責任を表徴します。

I ペテロ1:18 あなたがたが知っているように、あなたがたが父祖から受け継いだむなしい生活様式から贖われたのは、銀や金などの朽ちるものによるのではなく、**19** 傷もしみもない小羊の血のような、キリストの尊い血によるのです。

ヘブル2:14 こういうわけで、子供たちが血と肉にあずかっているのです、同様に彼ご自身も同じものにあずかられたのです。それは、彼が死を通して、死の権能を持つ者、すなわち悪魔を滅ぼすためであり、

C. 第四の成分である乳香は、白い樹脂状のゴムであり、キリストの甘い復活を表徴します。

塗り油と香の両方の構成について、原則はほとんど同じです。しかしながら、塗り油は、神が私たちに来られるためであり、香は、私たちが神に行くためです。油塗りには、三一、神性、人性、キリストの死と復活があります。香にも、やはり三一、神性、人性、キリストの死と復活があります。

ピリピ3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

D. 三つの香料と乳香には、塩が添えられ、全部で五つの成分があり、この五の数は責任を表徴します：
マタイ25:2 そのうちの五人は愚かで、五人は思慮深かった。

1. 塩は予表において、キリストの死の殺す力と保存する力を表徴します。

マルコ9:50 塩は良いものである。しかし、もし塩が塩味を失ったなら、何によって塩味を取り戻すのだろうか？ 自分自身の内に塩を持ちなさい。そして互いに平和でありなさい。

2. 香の四つの成分に塩を添えることは、私たちの祈りが、十字架によって「塩が加えられ」、私たちの内側のすべての不純さ、偏見が殺される必要があることを表徴しています。

私たちはさらに細やかな方法でクリスチャン生活を経験しようとするなら、十字架の要素をもって、私たちの祈りに徹底的に塩が加えられなければならないことを学びます。神が私たちにやって来ることは、十字架の日ごとの働きの事柄ではありません。そうではなく、彼が来ることは完全に油の中に、その霊の中にあります。しかしながら、私たちが神へと行くことは十字架を必要とします。私たちは絶えず十字架を必要とします。この塩はキリストの十字架、彼の殺す死を表徴します。私たちは、私たちの祈りの中でキリストの殺す死を経験する必要があります。私はこの経験を多く持っていることを証しすることができます。もし私の動機、意図、心が純粋でないなら、私は祈ることができません。さらに、もし私の霊に、ある種の偏見があるなら、やはり私は祈ることができません。祈るために、私の霊には偏見がなく、私の動機と意図は純粋でなければなりません。このように純粋であるためには塩を必要とします。それは十字架を必要とします。

若い人たちは罪を犯すと、祈るのがとても困難であるのを見いだすことを認識するかもしれません。しかし私たちは主の中で成長し、霊的生活においてさらに細やかな段階に来るとき、霊の中の少しの偏見でさえ、私たちを正しく祈らせることができないことを見るでしょう。

E. 出エジプト記第30章35節から36節によれば、香は、塩が加えられ、砕かれ、たかれなければなりません：

出30:36 そして、その一部を細かく砕き、その一部を集会の天幕にある、証しの箱の前に置かなければならない。私はそこであなたと会う。それは、あなたがたにとって最も聖なるものとなる。

1. 香を砕いてそれを集会の天幕にある証しの箱の前に置くことが表徴するのは、キリストの甘い死と彼のかおり高い復活をブレンドし、キリストの死と復活をキリストと彼の肢体たちのとりなしのための基礎として、香壇の上で神にささげるということです。

ローマ8:34 だれが罪に定めるのですか？ キリスト・イエスは死んで、さらに復活させられ、神の右で、私たちのためにとりなしておられます。

2. 私たちがキリストを香として持ち、甘いかおりとして神にささげるためには、香のすべての成分を伴うキリストの真の経験を必要とします。またこれらの経験は、塩が加えられ、砕かれ、たかれなければなりません。

III. 旧約においても新約においても、香は私たちの祈りを表徴します：詩141:2 私の祈りをあなたの御前に立ち昇る香としてください。私の両手を挙げることを、夕べのささげ物としてください。

A. 香は特に、復活し、昇天したキリストと、彼のすべての働き、結果、功績を、すなわち、彼であるすべて、彼が完成したすべて、彼が行なうすべてを指しています。

エペソ1:19 また神の力強い大能の活動にしたがって、信じる私たちに働く彼の力が、どんなに超越して偉大であるかを知るように。 20 神は、その力強い大能をキリストの内に働かせて、彼を死人の中から復活させ、彼を天上でご自身の右に座らせ、 21 すべての支配、権威、力、主権、そしてこの時代ばかりではなく、来たるべき時代においても唱えられるあらゆる名を超えて、はるかに高くされました。

22 また神は、万物をキリストの足の下に服従させ、そして彼を万物の上にかしらとして召会に与えられました。 23 この召会は、キリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満です。

B. 啓示録第5章8節において、鉢は聖徒たちの祈りですが、香は聖徒たちの祈りに加えられるキリストです。

啓5:8 彼がその巻物を受け取ると、四つの生き物と二十四人の長老たちは、小羊の前にひれ伏した。それぞれは、豎琴と香の満ちた金の鉢を持っていた。この香の鉢は、聖徒たちの祈りである。

C. 第8章3節において、香は、聖徒たちの祈りに加えられるキリストと彼のすべての功績を表徴しています。それは、金の祭壇の上にささげられた聖徒たちの祈りが、神に受け入れられるためです：

私たちが血の贖いを受け、十字架の終結の中にいる限り、私たちの中のキリストは私たちに結び付けられます。そして私たちが祈るとき、それは祈るキリストです。そのような時、私たちの祈りはキリストの表現です。その結果、神の御前でこれらの祈りは、神に受け入れられ、神によって答えられる香です。

啓8:3 また、もうひとりの御使いが来て、金の香炉を持って祭壇の所に立った。多くの香が彼に与えられたが、それはすべての聖徒の祈りと共に、御座の前にある金の香壇の上にささげるためであった。

1. 香としてのキリストを伴う祈りは、実は、神へと立ち上るキリストご自身です。これは、神にとって甘いかおりです。

2. このような祈りは、甘いかおりをもって神を満足させ、また同時に神のエコノミー、神の行政を遂行します。

3. 香の煙が示しているのは、香が聖徒たちの祈りと共に神に向かってたかれ、神に立ち上るということです：

啓8:4 その香の煙は、聖徒たちの祈りと共に、その御使いの手から神の御前に立ち上った。

a. このことが暗示しているのは、聖徒たちの祈りに効力があり、神に受け入れられているということです。

b. 煙が示しているのは、聖徒たちの祈りに効力があるということです。なぜなら、キリストが香としてそれらに加えられたからです。煙を立ち上らせるのは香であり、聖徒たちの祈りではありません。

c. 香の煙は、聖徒たちの祈りと共に神の御座へと立ち上り、そして祈りは答えられます。 啓8:5 その御使いは

香炉を取り、それに祭壇の火を満たして地に投げた。すると、雷鳴と声といわずまと地震とがあった。 **4・木**

4. 香は、復活し昇天したキリストを、すなわち、神によって受け入れられ、神へと受け入れられる唯一の方を予表しています。こういうわけで、彼は神にとって甘い香りとなります。
5. 香はキリストを表徴しているのですから、香をたくことは、キリストを祈ることを意味します。神の願いは、私たちが祈るとき、キリストを祈ることです。

IV. 二つの祭壇(青銅の祭壇と金の香壇)は、私たちの霊的な経験において密接な関係があります:

- A. 私たちが見る必要があるのは、二つの祭壇(青銅の祭壇と金の祭壇)がどのように結び付けられているかということです:
1. 二つの祭壇は、油塗りによって結び付けられています:出30:26 それをもって、あなたは次のものに油塗らなければならない。すなわち、集会の天幕と証しの箱、27 また机とそのすべての器具、また燭台とその器具、また香壇、28 また全焼のささげ物の祭壇とそのすべての器具、また洗盤とその台である。
 - a. 油塗りは、神の動きを表徴しています。
 - b. 神の動きにしたがって、金の祭壇と青銅の祭壇は結び付けられています。
 2. 二つの祭壇は、罪のためのささげ物の血によって結び付けられています:
レビ16:18 彼はエホバの御前にある祭壇に出て行って、そのために罪を覆わなければならない。彼は雄牛の血とやぎの血を取って、祭壇の四隅の角の上と周りに付けなければならない。
 - a. 罪を覆う日に、最も重要な罪のためのささげ物がささげられました。
 - b. このささげ物の血が流された後、その血は青銅の祭壇から香壇へともたらされて、香壇の四隅の角に塗られました。
 - c. 罪を覆う血は、二つの祭壇を結び付けました。
 3. 二つの祭壇は、ささげ物を焼いた火によって結び付けられています:
レビ6:13 火は祭壇の上で絶えず燃え続けさせなければならない。それを消してはならない。
 - a. 香をたくことに用いることができた唯一の火は、青銅の祭壇から来た火、すなわち天から下って来た火でした。
 - b. 香壇の上では異火を用いて香をたくことはできませんでした。レビ10:1 さて、アロンの子たち、ナダブとアビフは、それぞれ自分の香炉を取って、火をそれに入れ、香をその上に盛って、異火をエホバの御前に献(ささ)げた。それは、エホバが彼らに命じておられなかったことである。2 すると、火がエホバの御前から出て来て、彼らを焼き尽くしたので、彼らはエホバの御前で死んだ。
- B. 私たちは、青銅の祭壇と金の香壇の両方からいて、立ち上らせる必要があります:
レビ16:13 彼はその香をエホバの御前で火にくべて、香の雲が、証しの箱の上にある罪を覆う蓋を覆うようにしなければならない。それは彼が死なないためである。
 1. 青銅の祭壇でたくことから、また金の香壇でたくことから、甘い香りが神の満足のために、神へと立ち上ります。

2. 青銅の祭壇にはキリストの死の甘さがあり、それによって私たちは贖われ、終わらされ、置き換えられます。金の香壇にはキリストの復活と昇天の甘さがあり、それによって私たちは受け入れられます。

祭壇と犠牲は、贖い、終結、置き換えを暗示します。……私は祭壇と犠牲について読むときはいつも、十字架による私の置き換えであるキリストを見ます。今や私は言うことができます、「主を賛美します。たとえ私は罪深いとしても、贖われており、たとえ私に望みがないとしても、終わらされ置き換えられることができます。主よ、あなたに感謝します。あなたによって置き換えられつつある過程がなおも進行しており、ある日、それは完成されます。私があなたによって完全に置き換えられる時が来つつあります」。

肉体と成った三一の神に関して、二つの主要な完成があります。…第一の完成は第一の祭壇、すなわち、すべての犠牲のささげ物(十字架におけるキリスト)のための青銅の祭壇であり、神の御前での人のすべての問題を解決します。

第二の祭壇は金の香壇(昇天におけるキリスト)であり、贖われた罪人を神が受け入れるためです。昇天におけるキリストを経験するとき、私たちは安息の場所を持ち、家にいると感じます。私たちは第一の祭壇において巣を持ち、第二の祭壇において神の家の中の安息する場所を持ちます。

C. 私たちが金の香壇で祈るとき、私たちの祈りには異火も異なる香もあるべきではありません:

レビ10:1 さて、アロンの子たち、ナダブとアビフは、それぞれ自分の香炉を取って、火をそれに入れ、香をその上に盛って、異火をエホバの御前に献げた。それは、エホバが彼らに命じておられなかったことである。

1. 私たちの祈りの中で異火を持つことは、天然的であって十字架によって対処されていないある種の動機を持つことです。

2. 私たちの祈りの中で異なる香を持つことは、キリストと関係のないことを祈ることです。

出30:9 あなたがたはその上に異なる香や、全焼のささげ物や穀物のささげ物をささげてはならない。またその上に注ぎのささげ物を注いではならない。

3. 私たちが香壇で主と一になって、他の人のために、また主の権益のためにとりなすとき、私たちの祈りは、神にとってかおり高い香です。

出30:7 アロンはその上で、かおり高い香をたかなければならない。朝ごとにともし火を整えるとき、香をたかなければならない。40:26 次に、彼は集会の天幕の中の垂れ幕の前に、金の祭壇を置き、27 その上でかおり高い香をたいた。エホバがモーセに命じられたとおりである。

香をたくことは祈りを予表します。香は、復活し昇天したキリストを予表します。ですから、香をたくとはキリストを祈ること、キリストの中で、香としてのキリストと共に祈ることです。このような祈りはとりなしの祈りであって、私たち自身のための祈りではなく、神聖な行政を完成するため、神が恵みを供給する分与のため、諸召会と聖徒たちのための祈りです。そのような祈りは神にとってかおり高い香であり、彼の定められた御旨を成就し、彼の願いを満たして、彼の心を喜ばせます。

経験:ビジネス・ライフ編

- ① 聖なる塗り油は、神から私たちにやって来るすべてを含む霊としてのキリストを表徴していますが、香は、私たちから神へと行くキリストを表徴しています。これは、双方向の神聖な往来です。この往来は、私たちのクリスチャンの経験と非常に関係があります。それは、神がキリストの中で私たちにやって来ることと、私たちがキリストの中で、またキリストと共に神へと行くという事柄です。
- ② あなたが仕事を遂行するために、ワークスペース、パソコン、携帯電話などの会社の資産が、会社や上司によって提供されています。また、海外出張や英語のトレーニングなどの機会も与えられます。これらを用い、業務を遂行するため、あるいはこれらの機会をとらえてよく学ぶために、あなたはこれらのことが、上司があなたのためにやっている投資であることを理解する必要があります。優秀な社員は自分の上司の立場に立って、状況を正しく理解することができますが、二流の社員は、自分の観点から、自分の権利だけを主張するので、上から鳥瞰的な見方ができず、与えられた機会を十分に生かすことができません。
- ③ あなたは一人のクリスチャンとして、神から来るすべてを含む霊の油塗りを享受する必要があります。あなたは、神が経過されたすべての手順、受肉、十字架、復活、昇天を、すべてを含む霊によって経験した後、その手順の目標である神の御心、召会建造に触れ、御心を完成させるための願いを持ち、祈るべきです。そうでなければ、神からあなたに来ることと、あなたが神へと行くこととの双方向の神聖な往復は完成しないのです。この原則は、ビジネス・ライフについても同じです。会社や上司から受けている機会を当たり前なこと、あるいは煩わしいことであると考えているなら、あなたはそれらの機会を用いて十分に学ぶことは決してできません。このようであれば、あなたは二流の社員にとどまってしまう。召会生活の中で、神から受けたすべてを含む霊を享受するだけでなく、さらに進んで神を満足させるために香であるキリストを持って祈るべきです。このような人は会社においても上司から受けるだけでなく、上司に優れた業績をもって返すことができる一流社員になることができるのです。
- ④ 香の四つの成分に塩を添えることは、私たちの祈りが、十字架によって「塩が加えられ」、私たちの内側のすべての不純さ、偏見が殺される必要があることを表徴しています。

会社においてあなたが正しく上司に感謝し、優れた業績をもって上司に返すことができるために、十字架の殺す力を経験し、あなたの不純さ、高ぶり、自分に栄光を帰すこと、短気、傲慢さ、心の狭さ、個人主義、偏見、ごまかし、失敗することを極端に恐れることから来る臆病さ、自己欺瞞などを対処する必要があります。このような不純さを持ったままですと、状況を正しく理解できず、不平不満に満ちているので、良い業績を持って上司や会社に返すことはできません。このような人は香、キリストを持って祈り、神に行くことはできません。神の御心の遂行のためのとりなしの祈りをする人は、必ず祈りに塩が添えられなければなりません。同様に、会社で正しく機能し、優れた業績を上げるためには、不純さ、偏見、高ぶり、自己欺瞞などを塩によって殺される必要があります。

587 聖書を読む—主の言葉で養われる

1. めぐみの御座に来て、あわれみとめぐみ受ける；
それはてき時のたすけ、こころと霊、あんそくす。
2. 御かおのかがやきは、わがこころのなか照らし、
いやすひかりはなちて、わがよわさを消し去る。
3. ながひかりは照らす、わがまことのじょうたいを；
なが血しおの効き目は、わがつみすべてあらう。
4. なれはあぶら塗りで、ながせい分をつくり込む；
われはご自身を享受し、ながみこころに触れる。
5. 祭司が火をともしよう、御まえでみことばを読む；
ながれいはあぶらのよう、ことばのひかり、はなつ。
6. われらはいのるとき、さい司が香をたくように、
れいにあり、キリストを、香のようかみにささげる。
7. ことばはひかり、かて、われ照らされ、満ぞくする；
さらに読み、さらに食べ、啓示を受け、かてを得る。
8. なれはこう、またみず、われはつかれいやされる；
おおくのり、多く飲み、香をささげ、みずながす。
9. ことば読み、いのれば、あかるくされ、満たされる；
読みいのりで主を受け、いのり読みで主ながす。
10. いのり読みによりて、主とまじわり、混ざり合う；
主よ、われに浸とうして、われよりながれ出ませ！

587 讀經—從主話得饒養

- 1 我今來到施恩座前，得你憐恤，蒙你恩典，
作我所需應時幫助，使我心、靈得到安舒。
- 2 在此瞻仰你的榮面，你的面光照我心間，
放出你的醫治光線，消殺我的軟弱、缺點。
- 3 在此你的亮光照明，顯示我的真實情形；
你血也就顯出功能，將我罪污全都洗淨。
- 4 你的膏油也在塗抹，你的成分給我得著；
我就享受你的自己，也就摸著你的心意。
- 5 我願在你面前讀經，猶如祭司聖所點燈；
需要你靈像油一樣，使你話語放明發光。
- 6 也願在此向你禱告，好像祭司將香焚燒；
靈裡基督如香一般，調著禱告向神呈獻。
- 7 你話是燈，也是食物，我蒙光照，也得飽足；
深願在此多讀多喫，受到啟示，得著糧食。
- 8 基督是香，也是活水，我蒙悅納，也脫困憊；
也願在此多禱多喝，獻上香氣，流出江河。
- 9 讀經使我明亮、不餓，禱告使我馨香、不渴；
讀讀禱禱你就注入，禱禱讀讀你就流出。
- 10 我願如此與你相交，讀禱、禱讀與你相調；
也願如此給你浸透，直到你能從我湧流！

813

4. Thy Spirit too anoints me here And makes Thy very substance mine;
Thy very self I thus enjoy And know Thy very heart's design.
6. E'en as the priests the incense burned, In prayer to Thee I persevere;
As incense Thou the Spirit art Mixed with the prayer I offer here.
10. By reading I'm enlightened, filled, By prayer my thirst is quenched indeed;
Thus Thou to me may be supplied, And Thou through me may meet the need.